

地区別計画 稲荷地区

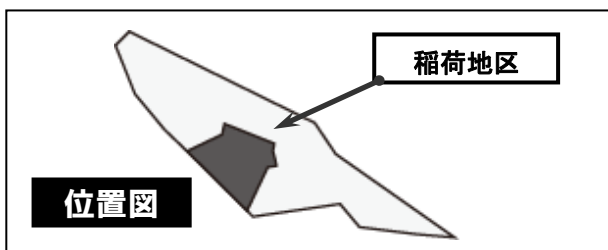
(1) 稲荷地区の概要

地区のあらまし

稲荷地区は、町域の中央南部に位置し、旭川空港に近接しています。

明治35年の入植から開拓がはじまり、水田耕作を中心とした農業が進められ、現在でも野菜や米を中心とした農業が展開されています。

また、平成25年の高齢化率が48.8%と高齢化の進んだ地区です。



主な公共・公益的施設

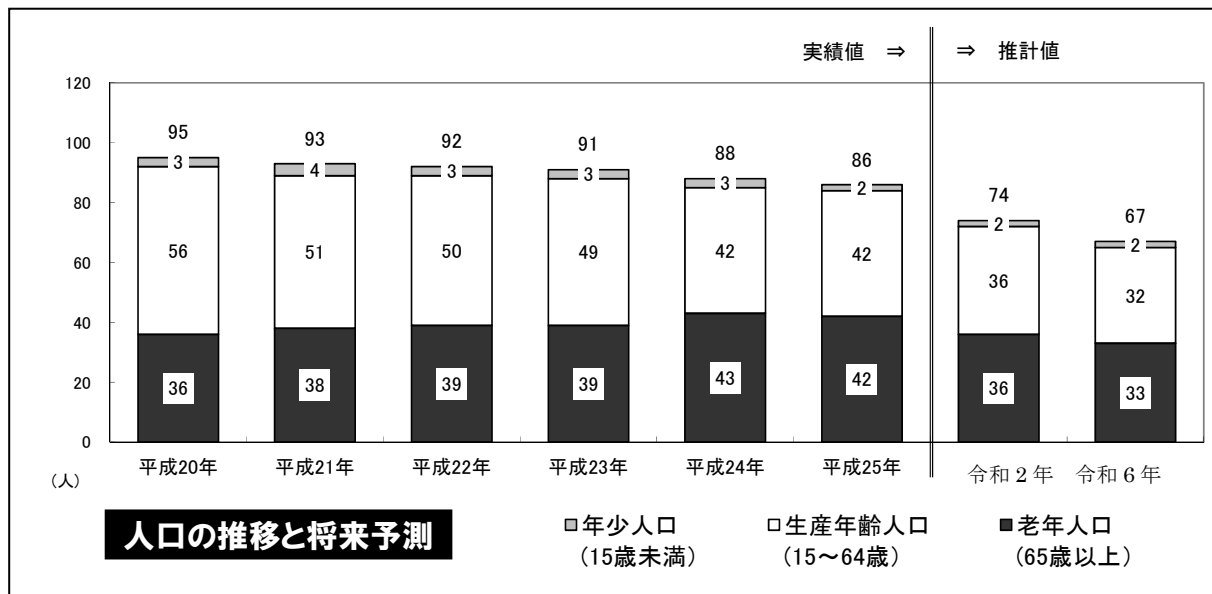
- ◇公民館
 - ・稲荷地区公民館
- ◇教育・文化・スポーツ施設
 - ・稲荷地区公民館グラウンド

道路・公共交通

- ◇町営バス
 - ・稲荷・八千代線

河川

- ・八千代川
- ・稲荷川



(2) 稲荷地区の魅力

稲荷地区の代表的な魅力は以下のとおりです。

1. 米・野菜を中心とした農業

米とともに、様々な野菜を生産する農業がさかんな地区です。

みんなで見つけた地区の魅力

農作物が新鮮／アスパラの生産量が多い／ブルーベリー、ハスカップつみ取りあり／水田が多くおいしい米がとれる／農家の方が多い（同一業種）ので結束が固い（顔見知りが多い、隣近所がわかる）／現役で働いている人が多い 等

2. 公民館活動が活発な地区

公民館活動を中心に、住民活動・交流がさかんな地区です。

みんなで見つけた地区の魅力

公民館活動が活発／みんな仲が良い／住民の交流がさかん／気さくな人が多い／豊富な人材／親切な人が多い 等

3. 豊かな自然と美しい景観を楽しめる地区

緑が豊かで美しい景観を楽しめる地区です。

みんなで見つけた地区の魅力

空気が澄んでいる／フットパスに最適な場所がある／自然が豊か／キノコなどの山菜が多い／星が良くみえる／旭川の夜景が見える／大雪山を美しく見られる所あり／自然に魅了された移住者がいる 等

4. 魅力的なお店がある地区

町外から多くの人の訪れるお店がある地区です。

みんなで見つけた地区の魅力

美味しいお店がある／隠れ家的なそば屋がある／種類が豊富でおいしいパン工房がある／モルタル造形工房がある 等

5. 旭川空港に近接した立地

国内外と道北を結ぶ玄関口である旭川空港に近接した地区です。

みんなで見つけた地区の魅力

空港に近い(東京に近い)／飛行機を下から(腹)見られる 等

(3) 稲荷地区の課題

稲荷地区の主な課題は以下のとおりです。

1. 地域資源の有効活用

空港に近接する立地を活かすことが課題となっています。

みんなで話した地区の課題

空港の立地を活かせていない／空港が近いのに通り過ぎてしまう／サイクリングロードがない／グラウンドが活用されていない／地域のPR活動／空港を利用する人をうまく利用しないとダメ等

2. 危険な道路環境への対応

安全な道路環境の確保が課題となっています。

みんなで話した地区の課題

ゴルフ場へ向かう車のマナーが悪い／車がよく落ちる／道路に案内板がない／冬道、車が通行しづらい（特にカーブ）。車道幅がわかりづらい／道路がせまい／急カーブが多い／道路・橋・施設の老朽化／歩道がない／街灯が少ない／スノーポールが少ない 等

3. 災害対策の強化

河川への土砂堆積による洪水への対応や安全な避難所の確保が課題となっています。

みんなで話した地区の課題

川があふれる、洪水／稲荷川・八千代川に土砂がたまっていて、大雨の時危険／河川工事がいない／広域的な水害対策／危険箇所の巡回／公民館（避難所としての機能を整えることが必要） 等

4. 公共交通の不便さへの対応

車のない方の移動手段の確保が課題となっています。

みんなで話した地区の課題

車がないと不便／スクールバスの運行方法の検討が必要／交通の便が悪い／バスだけでなく住民の足になるようなものの検討／移動販売の活用 等

5. 人口減少・少子高齢化の進行

人口の減少とともに少子高齢化が進んでいます。

みんなで話した地区の課題

過疎化が進んでいる／高齢化の問題／子育て世代が少ない／子どもが少ない／稲荷の歴史が分かる碑のようなものがあると良い（小学校跡地等）／地域生活の持続性 等

6. 農業をはじめとする地域産業の持続的発展

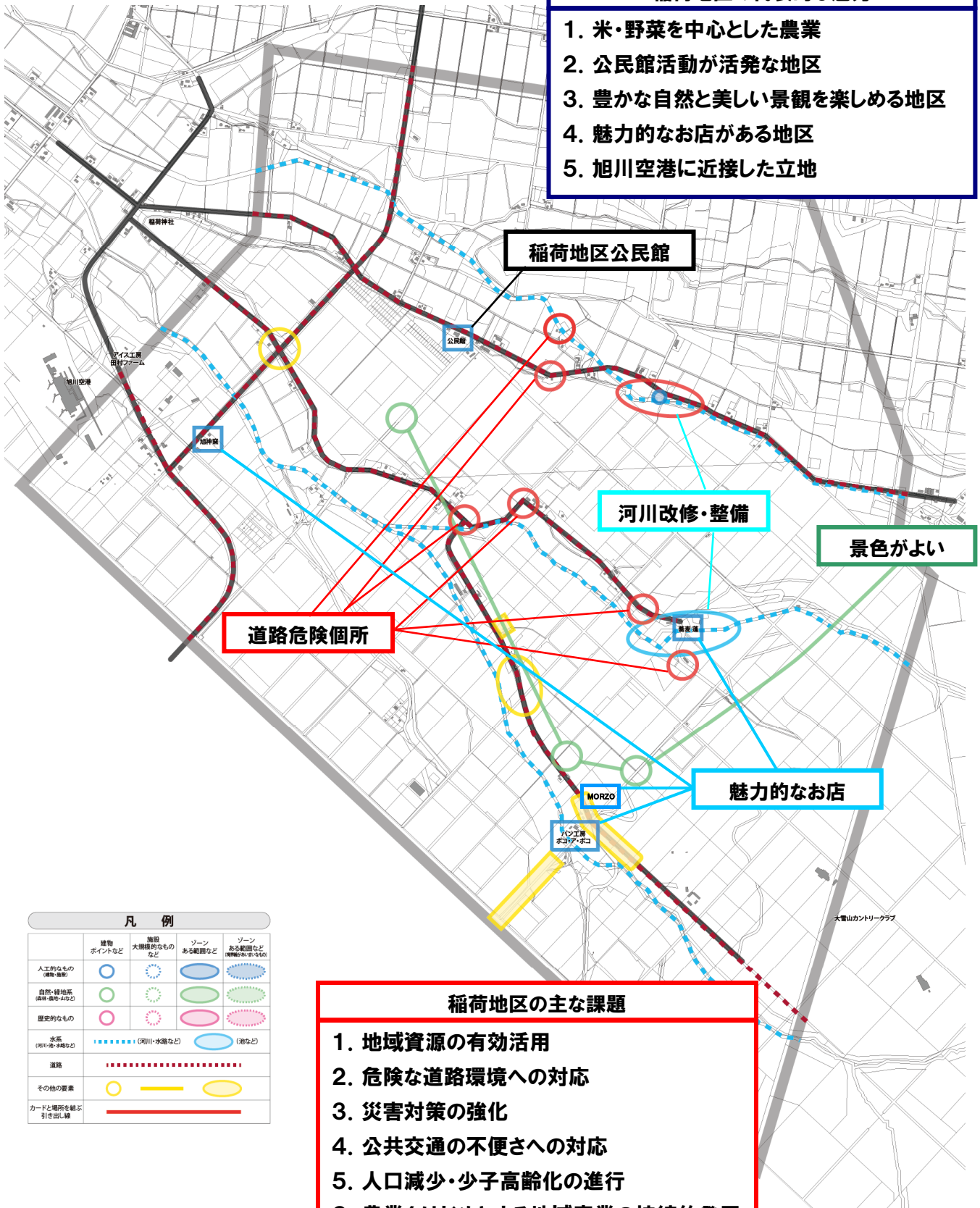
高齢化に対応した、農業をはじめとする地域産業の持続的な発展が課題となっています。

みんなで話した地区の課題

高齢化小規模農家対策の必要性／ＪＡとの協力が少ない／70代、80代になっても農業が続けられるようコントラクターなどが必要である／農村への移住

稲荷地区の代表的な魅力

1. 米・野菜を中心とした農業
2. 公民館活動が活発な地区
3. 豊かな自然と美しい景観を楽しめる地区
4. 魅力的なお店がある地区
5. 旭川空港に近接した立地



凡例

	建物 ポイントなど	施設 大規模なもの など	ゾーン ある範囲など	ゾーン ある範囲など 情報共有などの
人工的なもの (建物・施設)	●	○	■	■
自然・緑地系 (森林・農地・山など)	○	○	■	■
歴史的なもの	○	○	■	■
水系 (川・池・水たまり)	●	○	■	■
道路	—	—	—	—
その他の要素	○	—	—	—
カードと場所を結び 引き出し線	—	—	—	—

稲荷地区の主な課題

1. 地域資源の有効活用
2. 危険な道路環境への対応
3. 災害対策の強化
4. 公共交通の不便さへの対応
5. 人口減少・少子高齢化の進行
6. 農業をはじめとする地域産業の持続的発展

(4) 稲荷地区の目標

稲荷地区の目標と目標実現に向けた取り組みは以下のとおりです。**【重点】**とある項目は重点的・優先的に取り組む項目です。

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

目標実現のための取り組み

取り組み方針	取り組み内容	取り組みのあり方
(1) 農業対策	①農作業支援（シルバー人材センターの活用、コントラクターの活用等）の体系づくりを図ります。	住民 協働
	②各種団体と連携した農作物の流通を図ります。 【重点】	協働
	③グリーンツーリズムの推進を図ります。	協働
	④加工品を作るなどの6次産業の可能性を検討します。 【重点】	協働

※コントラクター：農業経営、全面農作業または部分農作業を受託し、受託料を収受する受託組織。

※グリーンツーリズム：主に都市居住者が農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

■目標2 地域資源を有効活用しよう

目標実現のための取り組み

取り組み方針	取り組み内容	取り組みのあり方
(1) 景観の維持・発展	①環境美化に努めます。	協働
	②フットパスのコースを考えます。	住民
(2) 情報発信の強化	①インターネット等を利用し地域の魅力を発信します。	協働
(3) 体験型観光の展開	①フライト待ち時間の体験事業を考えます。	住民
	②冬の体験事業を考えます。	住民

※フットパス：森林や田園地帯など地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く道。

■目標3 公民館を中心として元気な稲荷地区にしよう

目標実現のための取り組み

取り組み方針	取り組み内容	取り組みのあり方
(1) 住民交流の継続	①公民館活動への積極的な参加を促進します。	住民
	②地域での健康管理に努めます。	住民
	③移住者へのサポートを図ります。	協働
	④自治公民館としての活動(収益を得る活動等)のあり方を検討します。【重点】	協働
	⑤行政と住民が情報共有します。追加	協働

■目標4 安心して生活できる地区にしよう

目標実現のための取り組み

取り組み方針	取り組み内容	取り組みのあり方
(1) 安全な道路環境づくり	①道路や橋の老朽化対策を進めます。【重点】	行政
	②交通の危険箇所の解消に努めます。	行政
	③来訪者への交通マナーの啓発を図ります。	協働
(2) 災害対策の強化	①水害対策に取り組みます。【重点】	行政
	②危険箇所の巡回を図ります。【重点】	協働
	③防災に対する啓発を図ります。	協働
(3) 避難所の機能強化	①公民館の避難所機能の強化を図ります。	行政
(4) 害虫・害獣対策の強化	①スズメバチやアライグマ有害鳥獣等の対策に取り組みます。	協働
(5) 子育て支援	②子育て世帯を支援します。【重点】	協働

資料

(1) 策定経緯

平成 25 年	
12 月 19 日	<p>■第 1 回地区別まちづくり会議 時間：18:30～21:00 場所：稲荷地区公民館 参加者：19 名（職員 9 名、委員 10 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none">・情報地図の作成・地区の魅力と課題の検討
平成 26 年	
1 月 29 日	<p>■第 2 回地区別まちづくり会議 時間：18:30～20:45 場所：稲荷地区公民館 参加者：18 名（職員 9 名、委員 9 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none">・魅力と課題の整理
2 月 20 日	<p>■第 3 回地区別まちづくり会議 時間：18:30～21:15 場所：稲荷地区公民館 参加者：18 名（職員 9 名、委員 9 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none">・目標、取り組み内容の検討
3 月 19 日	<p>■第 4 回地区別まちづくり会議 時間：18:30～20:38 場所：稲荷地区公民館 参加者：17 名（職員 9 名、委員 8 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none">・目標、取り組み内容の検討・役割分担の検討・地区計画全体の報告

(2) 更新経緯

平成 30 年	
1 月 19 日	<p>■第 1 回地区別まちづくり会議 時間：18：30～21：00 場所：稲荷地区公民館 参加者：18 名（職員 10 名、委員 8 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題確認 ・進捗状況の確認 ・目標、取組内容、取組分担の検討
2 月 7 日	<p>■第 2 回地区別まちづくり会議 時間：18：30～21：00 場所：稲荷地区公民館 参加者：17 名（職員 10 名、委員 7 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の修正事項の確認 ・役割分担の確認 ・重点項目の検討・確認
令和 3 年	
12 月 21 日	<p>■第 1 回地区別まちづくり会議 時間：18：30～21：00 場所：稲荷地区公民館 参加者：18 名（職員 10 名、委員 8 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題確認 ・進捗状況の確認 ・目標、取組内容、取組分担の検討
1 月 20 日	<p>■第 2 回地区別まちづくり会議 時間：17：00～19：20 場所：稲荷地区公民館 参加者：14 名（職員 10 名、委員 4 名）</p> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の修正事項の確認 ・役割分担の確認 ・重点項目の検討・確認

(3) 地区別まちづくりに向けた意見・提言

よりよい地区づくりを進めるため、地区別まちづくり計画で定めた目標の実現に向け、目標ごとの取り組み方針に基づき、今後、具体的な取り組みを検討・実行していく必要があります。

こうした目標や取り組み方針、取り組みのあり方を定めるための検討を進める中で、具体的な取り組みを実行する上で重要な意見・提言が出されています。そうした意見・提言をまとめると以下のとおりとなります。

○計画策定時

1. 取り組み方針・取り組み内容に関する意見・提言

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

(1) 農業対策

②各種団体と連携した農作物の流通を図ります。

- ・ レストラン（農産物提供する場）の整備
- ・ 空港に特設ブース設ける
- ・ 雪室作成（野菜を売る）

③グリーンツーリズムの推進を図ります。

- ・ 素人がきてすぐ農業体験できる企画
- ・ 農業体験の整備をととのえる（何組かグループをつくる）
- ・ 農業体験の実施（学生 etc）
- ・ 短時間農業体験窓口の作成（空港利用者）

■目標2 地域資源を有効活用しよう

(3) 体験型観光の展開

②冬の体験事業を考えます。

- ・ スノーシューコース整備（歩くスキーなど）や雪の田舎体験（除雪、野菜など）

■目標3 公民館を中心として元気な稲荷地区にしよう

(1) 住民交流の継続

①公民館活動への積極的な参加を促進します。

- ・ ウォームシェアに取り組む
- ・ 昔からの食べ物の伝承

(1) 住民交流の継続

⑤自治公民館としての活動のあり方を検討します。

- ・ 空港駐車場の車の雪おろし
- ・ グラウンドの有効活用（ソーラーパネル）

2. 取り組みのあり方・協働に向けた意見・提言

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

(1) 農業対策

①農作業支援（シルバー人材センターの活用、コントラクターの活用等）の体系づくりを図ります。

→住民個人で対応するには限界があり、行政が仲介など携わってほしい。

②各種団体と連携した農作物の流通を図ります。

→住民だけではスムーズに進まない行政にも携わってほしい。

2. 取り組みのあり方・協働に向けた意見・提言

③グリーンツーリズムの推進を図ります。

→住民が主体となり実施するが、事業として盛り上げるには行政の協力も必要。行政は許可を得る場合など立ち上げる際の支援や地元だけでは広まらないと思われるのでPRの支援を行う。また、町で行っている食育にもからめていきたい。

■目標2 地域資源を有効活用しよう

(1) 景観の維持・発展

①環境美化に努めます。

→行政は放置自動車や廃屋の対策のため条例等の策定などを行い、住民・行政は協力して環境美化を行う。

(2) 情報発信の強化

①地域のパンフレットを作ります。

→住民は情報収集・掲載内容等の作成を行い、行政はパンフレットの作成支援、町HPでの掲載など支援する。

②インターネット等を利用し地域の魅力を発信します。

→行政は魅力発見の支援を行うほか、パソコン技術の習熟度も個人差があるので町のHPの活用支援を行う。

③フォトブック（写真集）を作成します。

→住民は写真の提供を行い、行政は費用、とりまとめ、町のHPへのリンクなど情報発信の支援を行う。また、ペーパーでは更新が大変なので町のHP等の利用がよいのでは。

■目標3 公民館を中心として元気な稲荷地区にしよう

(1) 住民交流の継続

④移住者へのサポートを図ります。

→住民は受け入れ、行政は斡旋、移住促進のための補助、受け入れ体制の整備を行う。

⑤自治公民館としての活動(収益を得る活動等)のあり方を検討します。

→住民だけでは全てはできない、行政の力も必要では。

■目標4 安心して生活できる地区にしよう

(1) 安全な道路環境づくり

③来訪者への交通マナーの啓発を図ります。

→住民と行政は協力して看板作りを行う。

(2) 災害対策の強化

②危険箇所の巡回を図ります。

→行政だけですべてを回りきるのは難しいので、住民も見回りなど情報提供を行う。

③防災に対する啓発を図ります。

→災害時の道路の通行禁止は行政でやるが、声かけ等は住民で行う。行政の防災無線等の利用、行政における危機管理能力の向上を。防災は誰かだけでできるものではない。

(3) 避難所の機能強化

①公民館の避難所機能の強化を図ります。

→行政は備品を用意し、住民は管理を行う。

(4) 害虫対策の強化

①スズメバチやカメ虫等の対策に取り組みます。

→行政で業者の照会など支援を行う。

1. 取り組み方針・取り組み内容に関する意見・提言

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

(1) 農業対策

- ①農作業支援（シルバー人材センターの活用、コントラクターの活用等）の体系づくりを図ります。
 - ・農業経験を積んだ人材を広域で確保し、繁忙期をずらした雇用をしてはどうか。
 - ・定期的にボランティアの受け入れを行い、農業の経験を積んでもらう人材育成の方法もある。
 - ・農家の経営に関することという視点では地域の目標とすべきか疑問がある。
 - ②各種団体と連携した農作物の流通を図ります。
 - ・農業プロデューサーの経営セミナー等への参加を促す取り組みが必要。
 - ・良い物を作る自信はあるが、販売ルートの確保など難しい面は今もある。
 - ③グリーンツーリズムの推進を図ります。
 - ・小学生の農業体験や個人の農業ホームステイを実施した。
 - ・空間を使うビジネス展開によって多くの人を呼び込める可能性がある。
 - ・民泊、農泊体験を受け入れる農家が増える必要がある。
 - ・グリーンツーリズムの推進によってフットパスやフォトブックの事業にもつながっているのでは。
- 【新規】④加工品を作るなどの6次産業化の可能性を検討します。
- ・農閑期などに新しいことに挑戦していくことも考えておいた方がよい。
 - ・明確な具体例がないので目標として定まらない感じがある。
 - ・数少ない前向きな意見なので、目標に残すべきではないか。
 - ・今すぐというより、今後の対策として6次産業化も考えていった方がよいのでは。
 - ・6次産業化を考えたとき、②③も関連するので一つの目標にまとめてはどうか。
 - ・②③④の3つの目標は進捗レベルが異なるので一つずつの目標とした方が明確化できる。

■目標2 地域資源を有効活用しよう

(1) 景観の維持・発展

- ①環境美化に努めます。
 - ・引き続き活動を進める必要がある。
- ②フットパスのコースを考えます。
 - ・コース設定をするだけならできるのではないか。
 - ・地域の環境を活かしたコースを作ってはどうか。
 - ・稲荷地区公民館から八千代地区公民館へ抜けるコースや、就実の丘に抜けるコースもよい。

(2) 情報発信の強化

- ①インターネット等を利用し地域の魅力を発信します。
※元の①地域のパンフレットを作ります。と③フォトブック（写真集）を作成します。と集約化
 - ・SNS等で農業の様子などを発信している。
 - ・稲荷地区の情報はインターネットでよく掲載されている。
 - ・パンフレットを町HPにアップしてはどうか。
 - ・町HPに掲載されている町内の風景の撮影場所を記載してはどうか。
 - ・グリーンツーリズムの発展とともに進めていくべきではないか。

(3) 体験型観光の展開

- ①フライト待ち時間の体験事業を考えます。
 - ・パンフにビューポイントを掲載し、待ち時間に撮影してもらうようにできないか。
 - ・元気なお年寄り子どもたちの交流窓を企画してはどうか。
 - ・体験会場をどこにし、どのように会場まで移動するか考える必要がある。
- ②冬の体験事業を考えます。
 - ・民泊に取り組むことで可能性があるのではないか。
 - ・スノーモービルを活用したアトラクションはどうか。

1. 取り組み方針・取り組み内容に関する意見・提言

■目標3 公民館を中心として元気な稲荷地区にしよう

(1) 住民交流の継続

①公民館活動への積極的な参加を促進します。

- ・現在も精力的に活動している。
- ・継続して取り組んでいく。

【削除】②特技を活かして地域づくりを図ります。

- ・項目の詳細を思い出せない。
- ・パン作りやそば打ちなど特技を持っている人を活用しようということだったか。
- ・地域の目標とは異なるため削除してもよいのでは。

③地域での健康管理に努めます。

- ・老人クラブは解散したが、地域住民で頑張っている。
- ・老人クラブがなくなり、当初の課題ではなくなったが、削除すべきか疑問も感じる。

④移住者へのサポートを図ります。

- ・継続していく必要がある。
- ・不動産情報の提供だけで、サポートしているとは言い難いのでは。
- ・就農サポートをすることで移住のサポートにつながるのでは。

⑤自治公民館としての活動（収益を得る活動等）のあり方を検討します。

- ・移住者や公民館活動に積極的でない方を含めた交流の機会を作りたい。

■目標4 安心して生活できる地区にしよう

(1) 安全な道路環境づくり

①道路や橋の老朽化対策を進めます。

②交通危険箇所の解消に努めます。

- ・①②を一つにまとめて重点項目とすべきでは。
- ・行政に対する要望活動の際、個別具体的なものの方がチェックしやすい。
- ・まとめると行政の担当部署が異なり重要度が薄まるのではないか。
- ・優先順位を明確にしておいた方が行政の対応が明確になる。
- ・一つにまとめず、それぞれのチェック機能を継続して取り組む。

③来訪者への交通マナーの啓発を図ります。

- ・地道な努力だが、効果のあるものを取り入れて解決につなげたい。

(2) 災害対策の強化

①水害対策に取り組みます。

- ・災害全般に対して地区としての体制づくりと役場との連携を図りたい。
- ・役場内の対応をしっかり引き継ぎ、最後までやり切ってほしい。

②危険箇所の改善を図ります。

- ・沿道法面の雑木を切らないと道路をふさぐようになるのではないか。

③防災に対する啓発を図ります。

- ・避難行動の判断や伝達方法など、地域の体制作りが必要。

(3) 避難所の機能強化

①公民館の避難所機能の強化を図ります。

- ・避難所の強化はできていると思うので削除してもいいのでは。
- ・備品は充実してきているが、発電機等の点検は実施しているのか。
- ・避難訓練なども行っているの、いい傾向にある。
- ・足腰の弱いお年寄りのため、簡易ベッド等の整備や車いすの増設の必要があるのでは。
- ・インターネット等の情報網の整備が必要（情報網の整備はすべての目標に関係してくる）。
- ・光回線もなく、さらには携帯電話がつかない場所もある。
- ・情報網の整備は地区の目標ではなく、町全体の事業となるのでは。 ⇒ 町への要望とする

1. 取り組み方針・取り組み内容に関する意見・提言

【変更】(4) 害虫・害獣対策の強化

【変更】①スズメバチやアライグマ等の対策に取り組みます。

- ・策定当時はカメムシの大量発生に困っていたが、今は害獣に困っている。
- ・今はアライグマなどの害獣被害が多いので、その対応も強化してほしい。

2. 取り組みのあり方・協働に向けた意見・提言

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

(1) 農業対策

- ①農作業支援（シルバー人材センターの活用、コントラクターの活用等）の体系づくりを図ります。
→行政や農協との連携が必要ではないか。
- ③グリーンツーリズムの推進を図ります。
→町の受け入れ窓口があった方がよい。
- ④加工品を作るなどの6次産業化の可能性を検討します。
→大きな取り組みとなるため協働とする。

目標2 地域資源を有効活用しよう

(1)

- ②フットパスのコースを考えます。
→企画・実行を協働で進めるといいものができるのではないか。

(2)

- ①インターネット等を利用し地域の魅力を発信します。
→今は各個人で紹介しているが、今後はだれがやるのか重要になる。

※他にもたくさんの貴重なご意見をいただきましたが、一部割愛させていただきます。

○令和3年度計画更新時

1. 取り組み方針・取り組み内容に関する意見・提言

■目標1 地域産業を持続的に発展させよう

- ・コントラクターの仕組みづくりについて⇒住民から協働に変更
→フットパス・クロスカントリーについて⇒フットパスの表現のままにする。空港に近い地の利を生かし、他からの人を呼び込められればよい。
- ・重点項目：6次産業

■目標2 地域資源を有効活用しよう

- ・このままとする。

■目標3 公民館を中心として元気な稲荷地区にしよう

- ・追加：行政と住民の情報共有をします。
- ・重点取る：公民館活動を活発にする

■目標4 安心して生活できる地区にしよう

- ・追加：子育て世代を支援する取組を行います。
- ・重点：子育て支援～、危険個所の見回り

2. 取り組みのあり方・協働に向けた意見・提言

- ・地区のために使える補助金については、町民に話を持ってきてもらわないと、知らない間に終わってしまう。
→目標を整理し、町民が求めているものを把握したうえで、職員は町民が求めているものについて探している
- ・行政が主にやる道路、住民が主にやるこんなことやったら楽しいよねという企画
→独自性のものはなかなか補助金もなく進まない。
- ・東神楽町は過疎債はないですね、農業振興地域はあるか？-あります。辺地-ある。稲荷も辺地に含めていくか検討している。
- ・稲荷地区は農村地区である。目標1に掲げていることは素晴らしいが、自分は農業対策はピンとこない。住民の半分は農業者でなくなっている。目標3・4をしっかりとやっていきたい。
- ・今かがけている目標はタイムリーなものばかりなので、10年先を見据えた目標がなく先が見えてこない
- ・移住者を呼び込むことに関しても、どういう整備をしたら長くいてくれるか。歩道・街頭・公園などの整備
- ・目標の進捗状況の確認をしたい。住民の話し合いだけで終わってしまうこと。目標をつくったならクリアしたいし、それには住民のこういうことをやりたいということについて、町職員と情報共有を密にする。

※他にもたくさんの貴重なご意見をいただきましたが、一部割愛させていただきます。